

事業群評価調書(令和5年度実施)

基本戦略名	2-2 交流人口を拡大し、海外の活力を取り込む	事業群主管所属・課(室)長名	文化観光国際部 観光振興課	長野 敦志
施策名	1 地域に新たな価値を付加する魅力ある観光まちづくりの推進	事業群関係課(室)	文化振興・世界遺産課、港湾課、スポーツ振興課	
事業群名	① 地域住民が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりの推進	令和4年度事業費(千円)	※下記「2. 令和4年度取組実績」の事業費(R4実績)の合計額	402,253

1. 計画等概要

<p>(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)</p> <p>観光客の満足度を高め、再び訪れたいと思われる魅力ある観光地を創出し、観光客のリピーター化と観光消費額の拡大を図るため、地域住民等が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりをさらに推進します。</p>	<p>(取組項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 地域住民が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりの先駆的な取組等に対する支援 ii) 高齢や障害の有無にかかわらず、全ての人が楽しく安心して観光できるユニバーサルツーリズムの推進 iii) 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産の価値を深め、伝え、将来に向けて守っていくため、調査研究・情報発信・意識醸成の取組の推進 iv) 構成資産の保護を担う集落等が活性化するための活動支援及び大学連携によるフィールドワーク等の促進 v) 構成資産や信仰の場を守るための教会守の配置や教会堂見学の事前連絡による受入体制の整備 vi) 港のにぎわい創出による地域の活性化の推進 vii) サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムによる観光振興と地域活性化
---	--

事業群	指標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	観光客(宿泊)のリピーター率	目標値①	/	61.9%	63.0%	64.0%	65.0%	66.0%	66.0% (R7)	
	実績値②	58.6% (H30)	65.0%	58.4%	/	/	/	/	進捗状況	
	達成率②/①	/	105%	92%	/	/	/	/	遅れ	
延べ宿泊者数	目標値①	/	842万人	872万人	878万人	885万人	891万人	891万人 (R7)	観光消費額(総額)について、令和2年は1,873億円(対前年比1,805億円減少(49.1%減))、令和3年は1,859億円(対前年比13.1億円減少(0.7%減))、令和4年は2,691億円(対前年比832億円増加(44.7%増))となっており、目標を達成することができなかった。 上記のとおり、延べ宿泊者数及び観光消費額については、各種施策の効果もあり、回復傾向にあるものの、令和4年度の目標達成には至らなかった。 令和7年度の目標達成に向けて、今後も引き続き、地域資源を活用した魅力的な観光まちづくりや効果的な情報発信に取り組むことで、誘客の促進を図っていく。	
	実績値②	836万人 (H30)	445万人	632万人	/	/	/	/		進捗状況
	達成率②/①	/	52%	72%	/	/	/	/		遅れ
観光消費額(総額)	目標値①	/	3,944億円	3,992億円	4,040億円	4,089億円	4,137億円	4,137億円 (R7)	観光消費額(総額)について、令和2年は1,873億円(対前年比1,805億円減少(49.1%減))、令和3年は1,859億円(対前年比13.1億円減少(0.7%減))、令和4年は2,691億円(対前年比832億円増加(44.7%増))となっており、目標を達成することができなかった。 上記のとおり、延べ宿泊者数及び観光消費額については、各種施策の効果もあり、回復傾向にあるものの、令和4年度の目標達成には至らなかった。 令和7年度の目標達成に向けて、今後も引き続き、地域資源を活用した魅力的な観光まちづくりや効果的な情報発信に取り組むことで、誘客の促進を図っていく。	
	実績値②	3,778億円 (H30)	1,859億円	2,691億円	/	/	/	/		進捗状況
	達成率②/①	/	47%	67%	/	/	/	/		遅れ

2. 令和4年度取組実績(令和5年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和4年度事業の実施状況 (令和5年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和4年度事業の成果等	
				R3実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R3目標	R3実績		達成率
				R4実績					R4目標	R4実績		
				R5計画	事業実施の根拠法令等				R5目標			
事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業	他の評価 対象事業 (公共、研究等)	事業対象								
所管課(室)名												
取組項目 i	○	1	「みんなで磨く!観光まちづくり」推進事業費	153,179	22,593	15,580	観光客の満足度を高め、再び訪れたいと思われる魅力ある観光地を創出するため、市町や観光関係団体等が取り組む観光コンテンツの開発・ブラッシュアップや新たな観光交流拠点づくりなど、県内各地域における観光まちづくりの取組を支援した。	【活動指標】	18	19	105%	●事業の成果 ・アクティビティや夜型の観光コンテンツなど、新たな着地型旅行商品開発に係るモニタツアー実施において、関係者との調整都合による事業構築の遅れや悪天候によるツアー回数の減少等の理由により成果指標を達成することができなかったものの、コンテンツの開発・ブラッシュアップや新たな観光交流拠点づくりなどへの支援を通して、今後の観光まちづくりの推進に向けた取組を進めることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・市町や観光関係団体等が取り組む観光まちづくりの推進により、地域資源を活用した滞在型観光コンテンツの開発や新たな観光交流拠点づくりなどが進み、地域の魅力が向上した結果、観光客のリピーター化や観光消費額の拡大に一定寄与した。
				97,663	29,576	31,378		【活動指標】				
								観光まちづくり支援地域数(件)	6	12	200%	
									10			
			117,440	63,309	34,722	【成果指標】		100	58	58%		
H13-	長崎県観光振興条例						【成果指標】					
観光振興課	—	—	—	市町、観光協会、観光活性化団体、まちづくり団体、その他民間団体				事業実施主体が作成する「事業評価表」における目標が達成又は一部達成の事業数に対する割合(%)	100			
取組項目 ii	○	2	ユニバーサルツーリズム受入体制整備促進事業費	15,764	7,758	3,895	高齢者や障害のある方など、すべての人が楽しめるユニバーサルツーリズムの促進及び誘客拡大を図るため、タビマエやタビナカにおける相談や車椅子の貸出、入浴介助など各種サービスを提供するワンストップ窓口として、民間団体が開設した長崎県ユニバーサルツーリズムセンターの運営等を支援した。	【活動指標】	190	200	105%	●事業の成果 ・高齢者や障害がある方などの旅行に関する相談に対応するワンストップ窓口であるユニバーサルツーリズムセンターの開設(R3.1.30)以降、徐々に認知も進み、目標には到達しなかったものの、コロナ禍でありながら相談対応件数は着実に増加している。宿泊施設への紹介件数は昨年同様コロナ禍でもあり1人となっている。 ●事業群の目標達成への寄与 ・ユニバーサルツーリズムセンターにおけるワンストップ窓口対応において、ユニバーサルツーリズムに関する相談・提案件数は着実に増加。ユニバーサルツーリズムは同行者を含めた複数名での旅行となることから、延べ宿泊者数・観光消費額の増加に一定寄与した。
				16,823	7,273	4,592		相談対応件数(件)	500	395	79%	
				19,800	7,493	4,630			500			
								【成果指標】	230	2	0%	
			R2-7	ユニバーサルツーリズム受入体制整備促進事業補助金実施要綱							R3,4: 県内宿泊施設へ紹介した観光客数(人)	
観光振興課	—	—	—	民間団体等				R5-: ユニバーサルツーリズムに関する提案をした観光客数(人)	100			

取組項目 iii iv	3	世界遺産を未来につなぐプロジェクト事業費	2,072	1,474	12,346	地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会を開催し、その中で世界遺産全体として連携できる取組を企画検討実施した。 また、小中高生向けの世界遺産学習や、地元キーマン・自治体職員へのオンラインを活用した講座等を行った。	【活動指標】 情報交流会等開催回数(回)	3			—	
		(R5新規)R5-6	ユネスコ世界遺産条約				市町、地元住民・団体	【成果指標】 構成資産全体として連携できる取組件数(件)	1			
		文化振興・世界遺産課	—	—	—							
取組項目 iii v	4	世界遺産情報発信事業費	27,600	14,725	15,580	世界遺産の多言語による情報発信を行うとともに、パンフレットや広報グッズ等の作成及び各種イベントでの頒布など、県内外へ世界遺産の価値と魅力を発信した。 世界遺産登録4周年を記念したパネル展や登録5周年のプレイベントとして絵画コンテストなどのイベントを開催した。 また、世界遺産の歴史的背景に関する最新の調査研究成果を発表するシンポジウムも開催した。	【活動指標】 世界遺産としての価値を伝えるためのパネル展や講座等のイベントへの参加者数(人)	15,000	36,811	245%	●事業の成果 ・ホームページの多言語対応やパンフレット及びガイドマップの修正・作成等により、世界遺産としての正しい価値の発信を行った。 ●事業群の目標達成への寄与 ・パンフレットやホームページおよびイベント等の開催を通じた世界遺産の価値と魅力の発信により、本県への来訪意欲向上につながる魅力発信に寄与した。	
			29,620	15,198	15,306		15,000	19,121	127%			
			27,820	15,953	15,432		15,000	90	96	106%		
		H19-	ユネスコ世界遺産条約				イベント等参加者へのアンケートによる、世界遺産としての価値の理解度(%)	90	92	102%		
		文化振興・世界遺産課	—	—	—		県内外の住民	90				
取組項目 iii	5	世界遺産登録5周年記念事業費	20,634	11,905	23,148	世界文化遺産登録5周年記念イベントを県内外で開催し、従来興味関心を持つ人だけでなく新たに若者世代にも本県の世界遺産に再度目を向けてもらうことで、コロナ禍により打撃を受けた世界遺産登録効果の回復と、世界遺産保護活動の担い手となる地域住民や県民の保護意識の再醸成を図る。	【活動指標】 イベント等の実施回数(回)	6			—	
		(R5新規)R5	ユネスコ世界遺産条約				登録5周年に際して行う世界遺産に関する各種イベントへの参加者数(人)					
		文化振興・世界遺産課	—	—	—			15,000				
取組項目 vi	6	港湾環境整備費(公共)	259,375	8,764	—	港湾の周辺環境を改善し、交流人口の拡大を図るための緑地整備を行った。	【活動指標】 環境対策実施港数(港)	3	3	100%	●事業の成果 ・交流人口の拡大を図るための緑地整備の進捗が図られた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・交流の拠点となる緑地整備を松浦港、川棚港、厳原港で実施しており、港のにぎわい創出による地域の活性化の推進に寄与することが期待される。	
			256,200	8,776	—		3	3	100%			
			312,270	1,520	—		3					
		H13-R7	—				【成果指標】 環境施設整備完了箇所(港)	—	—	—		
	港湾課	—	—	○	港湾利用者	—						
取組項目 vii	7	サイクルツーリズム推進事業費	1,947	1,149	7,653	県サイクルツーリズム推進協議会島原半島地域部に参加したほか、島原半島3市が島原半島観光連盟を事業主体として進めているサイクリストの受入環境整備に関して、検討会議や先進地視察などの支援を行った。また、大村湾南部地域を今後推進していくために必要な推進主体の構築や関係者の機運醸成をするため、同地域で想定するルートの半分を試走し、意見交換を行った。	【活動指標】 サイクルツーリズム推進に係る関係団体との協議等回数(回)	10	17	170%	●事業の成果 ・県サイクルツーリズム推進協議会島原半島地域部会や天草及びしまなみの先進地視察に参加し、サイクリストの受入環境整備の取組を支援したほか、大村湾南部地域の機運醸成のため、同地域の約半分のルートに関係者とともに試走し、今後事業推進していくための課題共有を行った。また、九州各県と連携して、九州・山ルートマップの英語版、中国語(繁体字)版を作成した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・県サイクルツーリズム推進協議会での協議や先進地の知見を取り入れながらサイクリストの受入環境整備の推進と地元の機運醸成を図ることで、交流人口の拡大に寄与した。また、九州各県との連携で、より広域への訴求効果が図られ、更なる交流人口の拡大に向けた基盤整備ができた。	
			1,255	716	6,173		15					
		R4-7	—				【成果指標】 サイクリスト受入環境整備箇所数(箇所)	10	12	120%		
		スポーツ振興課	—	—	—		県民、市町、地元観光協会等、競技団体	10				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i 地域住民が主体となって取り組む魅力ある観光まちづくりの先駆的な取組等に対する支援</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 地域主体の多様な関係者が参画する観光まちづくりの取組が少しずつ芽吹きつつあるが、まだまだ県内各地域の自立・継続的な取組にはつながっていない状況であるため、市町等とも連携しながら地域の観光まちづくり人材の育成に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 今後はさらに、市町等実施主体と密に連携し、観光の専門家も入れた事業計画策定等の支援を充実させることにより、地域主体の効果的で自立・継続的な観光まちづくりの取組を増やし、地域の魅力スポット創出による県内周遊を促進し、観光客のリピーター率向上や消費額の増加につなげていく。</p>
<p>ii 高齢や障害の有無にかかわらず、全ての人が楽しく安心して観光できるユニバーサルツーリズムの推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 ユニバーサルツーリズムに関するワンストップ窓口として令和3年1月30日に開設した「長崎県ユニバーサルツーリズムセンター」については、宿泊施設に関しては観光客が自らで選択する傾向にあるため、センターを通じた送客にはつながっていないが、コロナ禍においても相談対応件数は増加するなど認知は着実に進んでいる状況。引き続き、センターに求められるニーズを把握しながら、県内外の観光客への周知の強化等、利用促進に向けて取り組んでいく必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 観光需要も回復傾向にある中で、これまで以上にセンターの利用促進に向けて効果的な情報発信に取り組むとともに、顧客ニーズに対応できる相談・支援の充実を図るなど受入体制の強化を図り、ユニバーサルツーリズムを推進し、本県への誘客拡大につなげていく。</p>
<p>iii 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産の価値を深め、伝え、将来に向けて守っていくため、調査研究・情報発信・意識醸成の取組の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 調査研究の成果のデジタル化を実施したものの、一部のみであるため、引き続きデータ化に取り組む必要がある。世界遺産の価値と魅力の発信については、今後も継続して効果的な情報発信に努めていく必要がある。意識醸成の取組として、世界遺産学習や県内大学との連携、構成資産地域が連携できる取組などを検討・実施してきた。構成資産地域では保護の担い手不足・高齢化が懸念されており、今後は、地域住民含め、県民、自治体、来訪者に対するさらなる意識醸成の必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 世界遺産の価値を深める調査研究事業を継続するとともに、情報を正確に伝えて理解を促し、県民や来訪者の自発的な保護活動につなげるため、若者世代を中心として、引き続き効果的な情報発信方法(展覧会・講演会等)の実施や、各種情報のデジタル化を進めていく。また、世界遺産をみんなで守り伝えていくために関係市町や地元保護母体が一体となって取り組んでいる活動を広く周知することで、県民や来訪者の意識醸成を図っていく。</p>
<p>iv 構成資産の保護を担う集落等が活性化するための活動支援及び大学連携によるフィールドワーク等の促進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 近年、大学においては学生が主体的・実践的に学ぶ手法の一環としてフィールドワークが実践されており、実社会に活かせるような能力養成が行われている。本県においては、令和元年度から令和3年度にかけて、世界遺産構成地域における長崎大学及び長崎県立大学のフィールドワーク事業を行っており、その実績とノウハウを今後大学が行うフィールドワーク事業に継承させる必要がある。また、構成資産地域同士が連携できる取組について企画・検討・実施しているが、構成資産が所在する離島・半島地域では、人口減少や担い手不足が懸念されており、将来的に世界遺産の保護・継承を図ることが困難となるおそれがあることから、各構成資産地域の実情に応じた支援が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 構成資産地域の情報共有、構成資産同士の連携、官学間の適切な協力等を交えながら、地域と大学がこれまでのノウハウを活かした独自の取組としてフィールドワーク事業を継続していくことを目指す。また、令和4年度から実施している構成資産地域同士が連携して世界遺産全体として行う取組の企画検討について、より地域の実情を踏まえた支援を行えるよう、市町や地域団体との情報交流会を行うとともに、大学等の協力も得ながら連携して取り組んでいく。</p>
<p>v 構成資産や信仰の場を守るための教会守の配置や教会堂見学の事前連絡による受入体制の整備</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 潜伏キリシタン関連遺産の構成資産集落や教会堂は現在も生活・生業・信仰の場であり、来訪者が地域住民の暮らしを阻害することのないよう、秩序ある来訪を促し、適切に受け入れる仕組みが必要であり、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンターを中心とした事前連絡の運用により、適切な受入が実施できている。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 引き続き、インフォメーションセンター、大司教区、関係市町と連携し、受入体制の充実を図っていく。</p>
<p>vi 港のにぎわい創出による地域の活性化の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 港湾の周辺環境を改善し交流人口の拡大を図るため、港湾環境整備事業として緑地整備を進めている。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 目標を達成しており、事業の効果がみられることから、今後も引き続き事業推進を図っていく。</p>

vii サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムによる観光振興と地域活性化	
<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>島原半島のサイクリスト受入環境整備に向けて、地元自治体等と協議を行い、令和4年度から県・3市(島原市・雲仙市・南島原市)と連携し、島原半島観光連盟を事業主体として取り組んでいるが、自転車文化を根付かせるために、今後も地域の機運醸成が必要である。また、その他の地域においても、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げを検討する必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>島原半島のサイクリスト受入環境整備について、地元での機運醸成や県内外への情報発信、サイクルラックの設置などをさらに推進するほか、サイクルガイドの養成やレンタサイクルを増加させる必要がある。</p> <p>その他の地域では、大村湾南部地域において、サイクルツーリズム推進に向けた実施主体の立ち上げのため、コースの試走などを行い、意見交換をするなど、関係自治体等との協議を引き続き実施しながら、地域の機運醸成を図っていく。</p>

4. 令和5年度見直し内容及び令和6年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名		令和5年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和5年度の新たな取組は「R5新規」等と、見直しが無い場合は「―」と記載	令和6年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間	所管課(室)名		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 i	○	1	「みんなで磨く！観光まちづくり」推進事業費	H13- 観光振興課	市町等実施主体の事業企画の段階で、観光の専門家との意見交換を実施し、計画策定のブラッシュアップを支援していく。	②	令和6年度の補助事業採択に向け、観光の専門家との意見交換を複数回実施するなど市町等実施主体による事業検討期間を長くとり、事業効果の高い計画策定や取組の磨き上げ等の支援を強化していく。	改善
取組項目 ii	○	2	ユニバーサルツーリズム受入体制整備促進事業費	R2-7 観光振興課	引き続き、ユニバーサルツーリズムセンターにおける宿泊施設やモデルコースなどの情報の充実を図るとともに、令和5年度においては、これらの情報を効果的に発信していくチャンネル拡大に取り組む。	②	観光需要の回復が見込まれる中、効果的な情報発信による利用促進に取り組むとともに、日々の相談業務の中での声など観光客のニーズを分析しつつ、必要とされるセンター機能・体制の強化等の検討を行っていく。	改善
取組項目 iii iv		3	世界遺産を未来につなぐプロジェクト事業費	(R5新規)R5-6 文化振興・世界遺産課	R5新規	②	これまで、地元キーマンや行政職員が一堂に会する情報交流会を開催し、構成資産地域同士のつながりの強化や情報共有、意識向上等を図るとともに、世界遺産全体として連携できる取組の企画・検討・実施をしてきたが、今後は構成資産地域が主体的に動き、構成資産地域同士の連携事業を行うことで、本県への訪問者の増加や、地域の収益向上によるプラスの循環を目指す。 また、小中高生向けの世界遺産学習や、地元キーマン・自治体職員へのオンラインを活用した講座等を引き続き行い、将来世代に向けた世界遺産の保護意識醸成を図る。	改善
取組項目 iii v	○	4	世界遺産情報発信事業費	H19- 文化振興・世界遺産課	令和5年度に実施する世界遺産登録5周年記念事業において、各種イベントでのパンフレットや広報グッズの配布、パネルの掲示等により価値と魅力の発信に努める。 また、調査研究成果のさらなる活用に向けた各種情報のデジタル化を進める。	②	世界遺産登録5周年記念事業をきっかけに新たに訴求した若者世代を中心として、引き続き世界遺産構成資産地域の魅力発信を行い、世界遺産の正しい価値理解促進を図るとともに、関係各所と連携して更なる保護意識の醸成を図る。	改善
取組項目 iii		5	世界遺産登録5周年記念事業費	(R5新規)R5 文化振興・世界遺産課	R5新規	—	—	終了

取組項目 vi	○	6	港湾環境整備費(公共)	—	—	港湾環境として緑地を整備することにより、港のにぎわいを創出し、地域活性化に寄与することから、令和5年度も引き続き事業を継続する。	現状維持
			H13-R7				
			港湾課				
取組項目 vii	○	7	サイクルツーリズム推進事業費	島原半島においては、引き続き財政的支援や助言等を行い、サイクリングルートの充実や地域の機運醸成などサイクリストの受入環境整備を進めて行く。大村湾南部地域については、ルート上の自治体や関係団体等と残る半分のルートの試走や受入環境整備に向けた協議を行い、今後同地域におけるサイクルツーリズムの推進組織の立ち上げに向けて取り組む。 また、九州・山口サイクルツーリズムにおいては、今年度、福岡、熊本、大分で実施予定の「ツール・ド・九州」の視察を行うなどして、今後の開催可能性を検討する。	②⑤⑥	島原半島地域の受入環境整備の大方の完了に向けて取り組むとともに、国内外からのサイクリストの誘客に向けて、PR・プロモーションの準備に関係者と連携して取り組む。大村湾南部地域は推進組織を立ち上げた後、関係自治体と連携し、サイクリスト受入環境整備の計画策定や地域の機運醸成について協議を行い、予算の獲得等への支援・助言を実施する。 九州・山口サイクルツーリズムについては開催された「ツール・ド・九州」の経済効果などを分析し、今後の開催の可否判断を行う。	改善
			R4-7				
			スポーツ振興課				

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要があるか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点